

用語の解説

【あ行】

●秋田県都市計画道路見直しガイドライン（案）

平成 17 年 5 月に秋田県都市計画課が都市計画道路の見直しのために作成したガイドライン。都市計画決定後、長期にわたり事業未着手の都市計画道路を主体に、現在の社会情勢に照らし合わせ、計画の必要性や事業実現性を評価し、計画の継続・変更・廃止等の見直しの方向性を定めるための基本的な考え方と手順等を示すものである。今後、県及び各市町においては、本ガイドライン（案）の活用により、適正な都市計画道路網の策定に向けた見直し作業への取り組みを促進するものである。

●アクセス交通

ある目的地へ移動するための経路や移動する行為。複数交通手段を利用する場合、主な交通手段（例えば鉄道駅）に至るまでの交通を「アクセス交通」という。

●閾値

その値を境にして、動作や意味などが変わる値のことである。

●イグレス交通

ある目的地へ移動するための経路や移動する行為。アクセス交通とは逆に主要な交通手段利用後に（例えば鉄道駅から）目的地に至るまでの交通を「イグレス交通」という。

●OD 表

どこからどこへ、どれだけの交通（自動車や貨物車等）が移動するかを表にしたもの。地域、または施設の相互間の貨物輸送数量、輸送件数、自動車交通量などの発着量を表す。O は出発地（Origin）と D は目的地（Destination）を意味する。

【か行】

●架空横断

道路の踏切部などにおいて、鉄道の線路上部に橋を架け横断すること。踏切などによる交通渋滞の解消に寄与する横断方法である。

●共起ネットワーク分析

共起とは、同一の文章（「。」で区切る）内である単語とある単語が出てくることである。共起ネットワーク分析とは、文書からその文書の特徴づける語の抽出を行い、よく出てくる単語同士の共起関係をネットワーク図にするものである。

●緊急輸送道路

災害直後から、避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき重要な路線で、高速自動車国道や一般国道及びこれらを連絡する幹線的な道路を指す。

●ケーススタディ

ある具体的な事例について、それを詳しく調べ、分析・研究し、その背後にある原理や法則性などを明らかにする方法である。

●交通空白地域

一般的に徒歩圏内に鉄道や路線バスが運行されていない地域のことをいう。

●交通弱者

自動車中心の社会において、年少者、要介護者、一部の高齢者や障害者など、自力で自動車を運転することができず、自家用の交通手段がないため公共交通機関に頼らざるを得ない人。とくに公共交通機関が整備されていないため、買い物など日常的な移動にも不自由を強いられている人を指す。

●交通容量

ある道路が一日あたりまたは時間あたり等で、どれだけの自動車を通し得るかという、その道路の能力を指す。一般的に車線数が増えるほど交通容量は大きくなる。

●コミュニティバス

地域住民の移動手段を確保するために地方自治体等が実施するバスである。

【さ行】**●産学官**

産業界（民間企業）、学校（教育・研究機関）、官公庁（国・地方公共団体）の三者を指す。

●人口集中地区（DID）

人工の統計データに基づいて一定の基準（人口密度が1km²あたり4,000人以上で、かつ合計人口が5,000人以上の地域）により都市的地域を定めたもの。人口集中地区は都市の状態を示す重要な指標の一つである。

●スクリーンライン

交通量調査や交通量推計結果等の精度を確認するために対象地域（市域）を分断する線を指す。主に河川の渡河部や鉄道の横断部など、自動車交通が集約される箇所につけられることが多い。

●セカンドカー

一家で2台目に持つ自動車。遠出よりも、主に近所の買い物など補助的に使われる自動車を指すことが多い。

●総合計画

地方自治体が策定する自治体のすべての計画の基本となり、地域づくりの最上位に位置づけられる計画となる。基本構想や基本計画等を整理し、市の長期的及び総合的な行政運営の指針となる計画。

【た行】**●ターミナル整備**

鉄道・バスなどの終着駅や交通路線が集中する場所を整備すること。ターミナルとすることで、他路線への乗換や路線の集約を行えることから、公共交通機関の利用が便利になる。

●地域公共交通網形成計画

「地域にとって望ましい公共交通網のすがた」を明らかにするために、公共交通網形成に関する基本的な方針を示した計画。国が定める基本方針に基づき、地方公共団体が協議会を開催しつつ、交通事業者（鉄道やバス等）との協議の上で策定する。まちづくりと連携し、かつ面的な公共交通ネットワークを再構築するために実施する事業（地域公共交通特定事業など様々な取組）について記載する。

●地域防災計画

災害対策基本法に基づき、各地方自治体（都道府県や市町村）の長が、それぞれの防災会議に諮り、防災のために処理すべき業務などを具体的に定めた計画である。各地方自治体は事故災害や地震災害、津波災害、火山災害などに対して、被害を最小限にするために、平常時からできる対策や有事の際の応急や復旧活動に関する計画を整理している。

●デマンドタクシー

ドア・ツー・ドアの送迎を行うタクシーに準じた利便性と、乗合・低料金というバスに準じた特徴を兼ね備えた移動サービスである。

●都市機能集積拠点

電気や水道の供給、交通手段の提供、行政機能、及び商業、教育、観光の場としての機能など、都市が持つ機能を集積した場所。

●都市計画区域マスタープラン

正式には、「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」という。都市計画区域マスタープランは、県が人口、人や物の動き、土地の利用のしかた、公共施設の整備などについて将来の見通しや目標を明らかにし、将来のまちをどのようにしていきたいかを具体的に定めるものである。

●都市計画マスタープラン

正式には、「市町村の都市計画に関する基本的な方針」という。住民に最も近い立場にある市町村が、その創意工夫のもとに住民の意見を反映し、まちづくりの具体性ある将来ビジョンを確立し、地区別のあるべき「まち」の姿を定めるものである。

●トリップ

ある目的（例えば、出勤や買物など）を持ってある地点からある地点へ移動する際の単位である。自宅から買い物を目的でお店に行ったら1トリップとなり、お店から自宅まで帰宅した場合も1トリップとなる。自宅とお店を往復することで2トリップとなる。

【は行】

●パーソントリップ調査

一定の調査対象地域内（例えば市区町村内）において「人の動き」（パーソントリップ）を調べる調査を言う。交通の実態を明らかにする調査としては最も基本的な調査の一つとなっている。パーソントリップ調査を行うことによって、調査対象となった人の交通行動の起点（出発地：Origin）、終点（到着地：Destination）、目的、利用手段、行動時間帯など1日の詳細な移動に関するデータ（トリップデータ）を得ることができる。

●ハザードマップ

自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したものである。予測される災害の発生日点、被害の拡大範囲及び被害程度、さらには避難経路、避難場所などの情報が既存の地図上に図示されている。

●フィーダー運行路線

道路や鉄道などの交通網において、地区内の地域拠点である主要な鉄道駅や道の駅と地域郊外を結ぶ路線である。地域郊外に点在する交通空白地域の解消に有用な路線となる。

●防災公園

地震や火災などの災害が発生したときに、住民の生命、財産を守るため、避難地、避難路等として機能する都市公園をいう。

【ら行】

●ロードヒーティング

道路の融雪及び凍結防止のため路面の温度を上げる施設である。

●ローリング方式

毎年度修正や補完などを行うことで、変化する経済・社会情勢に対応し、計画と現実が大きくずれをを防ぐ方法である。